



図書館通信

静岡大学附属図書館報 NO.173 2021.4

目次 ■ 巻頭言 ■ 令和2年度の新型コロナウイルス感染症対応について ■ 教員等著作寄贈図書一覧
■ 図書館の動き

〈巻頭言〉

魂の癒しの場



館長 坂本 健吉

新入生の皆さん、ようこそ静岡大学へ。もう少しのあいだはコロナ禍での不自由な状況が続くと思いますが、世界的にワクチン供給も始まっているなど明るい兆しも見えています。しかし、このコロナ禍によって、多くの社会システムが変わらざるを得なくなりました。学内でいえば、これまでは実施困難とされていたウェブ配信による遠隔講義がいやおうなく実現化されています。図書館もまた、この歴史の転換点的なコロナ禍を経て大きく変わっていくことになりそうです。

ここで、少し図書館の歴史をたどってみましょう。史上初めての「整理された図書館」として知られているアッシュールバニパルの図書館は紀元前7世紀に設立されたもので、メソポタミア文明のくさび形文字を記した粘土板がジャンルごとに分類されて保管されていました。19世紀半ばに発見されるまで2500年も地中に埋もれていた

遺跡ですが、有名な『ギルガメシュ叙事詩』を含む3万点あまりの粘土板が発掘されています。

この図書館は中島敦の『文字禍』という小説の舞台にもなっています。「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」のため虎に変身してしまった男の物語、有名な『山月記』と同じ短編集に収録されているので、ご存じの方も多いかもかもしれません。『文字禍』には当時の図書館の様子が描かれています。

「人々は、粘土の板に硬筆をもって複雑な楔形の符合を掘りつけておった。書物は瓦であり、図書館は瀬戸物屋の倉庫に似ていた」とあって、今の図書館とはずいぶん様相が違ってきます。その図書館で毎夜ひそひそ怪しい話し声を発するという文字の霊を研究していた老博士ナブ・アヘ・エリバがこの物語の主人公です。彼は文字の霊が人間に災いを及ぼすことを突き止め、アシュル・バニ・アパル大王に文字の恐ろしさを進言しますが聞き容れられず、最後には地震で崩れ落ちてきた数百枚の粘土板（書物）で押しつぶされてしまいます。文字の霊という虚構が格調高い漢文調の文章で不思議なリアリティを与えられており、『山月記』に魅力を感じた方にはオススメの小説です。

粘土板の文書は長期間の保存に耐えるのですが、いかにせん重すぎてペラペラとめくって読むなどといったことは無理でしょう。もちろん、限られたスペースに収蔵したり、遠くに運ぶのが大変だという難点もあります。このためほぼ同じ時期のエジプトでは軽い植物由来の「紙」であるパピルスの文書が発達していました。また、パピルスが採れない地域では、羊皮紙が作られていました。こうしたいわゆる「紙」の書籍収集で有名なのが紀元前3世紀ごろに作られ、数百年間のあい

だ世界の学問と知識の中心となったアレクサンドリア図書館です。一説によると 40 万冊もの本があったとされていますが、たび重なる戦火などで失われてしまいました。

この図書館のパピルス蔵書の棚の上には「魂の癒しの場」という語句が刻まれていたと伝えられており、これはラムセス 2 世の図書館にあった碑文に由来するものだそうです。たしかに日常から離れて短時間でも本の世界で精神を遊ばせることは「魂の癒やし」といえます。そういえば、同じ語句をスイスのザンクト・ガレン修道院図書館の入口で見た記憶があります。ここはスイス最古の図書館で創設は 8 世紀。今では世界遺産に指定されていますが、大きなスリッパを履いて館内を見学することが許されており、そこで羊皮紙に手書きされた美しい写本に直に接するのは眼福と言えましょう。

さて、粘土板やパピルス、羊皮紙の時代から紙の時代を経て、今やデジタル化された「書籍」が増え始めています。小さなノートパソコンがあれば学術雑誌はもちろん、世界中の膨大な資料にウェブ経由でアクセスできる時代になりました。特

にコロナ禍下においては図書館に出向くことなく、また現物に触れる必要もない電子媒体の利用が進んでいます。便利さで言えば格段の進歩ですが、保存性の面ではどうでしょうか。デジタル情報はそれに対応するハードウェアとソフトウェアが必要であり、それが百年、二百年と同じ規格で使えるとも思えません。意外に粘土板や紙媒体より寿命が短い可能性も高そうです。実際、デジタル化の一方で各種の資料をプラスチックの写真フィルム（素材の寿命は 500 年！）に小さく写して保存するマイクロフィルムという極めてアナログな手法が図書館で使われています。

このデジタルの時代に「魂の癒しの場」、古くから伝わる図書館という居心地の良い空間をいかに維持していくのか、また「書籍」をどうやって次の世代に伝えていくのか。それを考えて実現させていくのがコロナ禍後の図書館の方向性となるでしょう。

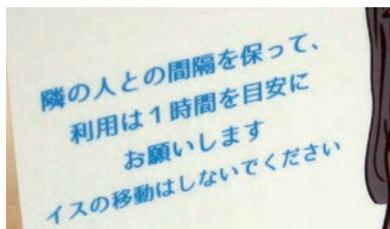
※『山月記；李陵：他九篇』（岩波文庫）は静・書庫、浜・開架。『文字禍』は青空文庫にも入っています。

<令和 2 年度の新型コロナウイルス感染症対応について>

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の影響により、令和 2 年度は各種図書館サービスも見直しをはからざるを得ませんでした。

前年度の令和 2 年 3 月より一部施設の利用停止、一般の方の利用停止に始まり、4 月より閲覧席数の制限、開館時間の短縮、各種サービスの停止、4 月 20 日から 5 月 6 日の間は、臨時休館に至りました。

その後、大学の活動方針レベルに準じ、制限が解かれるに従い、段階的に開館時間の延長、施設利用や各種サービスの再開を行ってきましたが、執筆時点（令和 3 年 2 月末）での大学の活動方針レベルは 2、現在も開館時間も含め、サービスに制限をかけた状態です。



■令和3年2月末現在の館内施設の開放状況

	施設	開放状況
静岡本館	セミナールーム	令和2年3月から原則利用停止
	ハーベストルーム	令和2年4月から利用停止
	ギャラリー	令和2年10月から利用再開
	PCワークエリア	令和7月席のみ席数を減らして利用再開。シンクライアントは利用不可のまま
	視聴覚ブース	令和2年4月から利用停止（資料の一部は借りられます）
	個人ブース	令和2年4月から利用停止
	閲覧席	席数を減らし、間隔を開けて運用
浜松分館	セミナールーム・CALL 教室	令和2年4月から原則利用停止
	グループワークエリア	令和2年7月から席数を減らし、間隔を開けて運用
	視聴覚ブース	令和2年4月から利用停止
	グループ学習室	令和2年4月から利用停止
	個人ブース	令和2年4月から利用停止
	PCワークエリア	令和2年7月から席数を減らして閲覧席としての運用、10月から台数を制限してPCの利用再開
	ギャラリー	令和2年12月下旬から利用再開
	閲覧席	席数を減らし、間隔を開けて運用

■令和3年3月現在のサービスの提供状況（静岡本館、浜松分館）

各種サービス	提供状況
静岡県内の県、市町の図書館との相互貸借	令和2年5月再開
他大学図書館との相互貸借	令和2年6月再開
国立国会図書館デジタルコレクション	令和2年6月再開
PC貸出（静岡本館のみ）	台数限定の上、令和2年10月再開
館内設置PC	台数制限の上、令和2年10月再開

なお、再開した施設、サービスも、時間制限を設けるなど、感染症対策に留意したご利用をお願いしております。

■その他サービスの変更点

・貸出

図書の貸出は、返却期限の延長や更新回数の変更などを経て、現在通常通りのサービスを行っています。

コロナの影響により返却が困難などの事情があれば、各館窓口にご相談ください。

（静岡 054-238-4479、浜松 053-478-1391、いずれも応対できるのは9:00-12:30、13:30-17:00）

・閲覧席のゾーニング（静岡本館のみ）

5階閲覧席はPC利用可の場所（東側）と不可の場所（西側）とにゾーン分けをしていましたが、席数不足と席の間が開いたことで打鍵音の影響も多少低減されていると判断し、ゾーン分けを廃して運用しています。

新年度になり、コロナの状況、そして大学の活動方針レベルがどうなっているか、予測ができませんが、コロナ感染のリスクができるかぎり低くなるよう心掛けつつ、状況に応じたサービスを提供していきます。

皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

〈教員等著作寄贈図書一覧〉

この度は著作物をご恵贈していただき誠にありがとうございます。

図書館では学内出版物及び学内関係者が執筆した図書を収集しています。今後も著作を刊行された際には是非ご恵贈くださるようお願いいたします。

- ◇阿部圭一（名誉教授）
 - ・よくわかるデジタル数学：離散数学へのアプローチ [近代科学社] 〈著者〉 静・開架, 浜・開架 【410.9/A12】
- ◇太田美帆（農学領域）
 - ・自分でするDIY社会学 [法律文化社] 〈執筆〉 静・開架 【361/KA18】
 - ・岐路に立つ欧州福祉レジーム：EUは市民の新たな連帯を築けるか? [ナカニシヤ出版] 〈執筆〉 静・開架 【364.1/F75】
- ◇大野旭（人文社会科学領域）
 - ・モンゴル語政治資料 [風響社] 〈編〉 静・開架 【312.227/Y72/12】
 - ・ウイグル人 [集広舎] 〈執筆〉 静・開架, 浜・開架 【222.8/A41】
- ◇今野喜和人（名誉教授）
 - ・永遠なるカミーノ：フランス人作家による「もう一つの」サンティアゴ巡礼記 [春風社] 〈訳〉 静・開架, 浜・開架 【955/R82】
- ◇白井千晶（人文社会科学領域）
 - ・現代アジアのリプロダクションに関する国際比較研究：ジェンダーの視点から：調査報告書 [静岡大学] 〈編〉 静・開架 【491.354/SH82】
- ◇杉浦彰彦（情報学領域）
 - ・マルチメディア情報符号化の基礎と応用：情報伝達の効率化と信頼性の確保 [コロナ社] 〈著者〉 浜・開架 【007.6/SU48】
- ◇杉山岳弘（情報学領域）
 - ・かんのんさまのおまつり [静岡大学情報学部杉山岳弘研究室] 〈制作〉 静・開架, 浜・開架 【176/TA84】
 - ・海の湖教科書 お祭り編 [浜名湖観光圏整備推進協議会] 〈監修〉 浜・開架 【386.154/U74】
- ◇鈴江毅（教育学領域）
 - ・共感：看護における共感の測定と開発 = the measurement and development of empathy in nursing [クオリアティア] 〈訳〉 静・開架 【492.9/R29】
 - ・テキスト健康科学 = Textbook of health science [南江堂] 〈執筆〉 静・開架 【498/SA85】
 - ・エッセンシャル特別支援教育コーディネーター [大学教育出版] 〈著者〉 静・開架 【378/MU82】
 - ・精神保健の理論と実際 [保育出版社] 〈執筆〉 静・開架 【493.79/K012】
 - ・養護教諭のための公衆衛生学 [東山書房] 〈著者〉 静・開架 【374.9/KA98】
- ◇立元雄治（工学領域）
 - ・わかる！使える！乾燥入門 [日刊工業新聞社] 〈著者〉 浜・開架 【571.6/TA94】

◇松家由美子（大学教育センター）

- ・映画英語アカデミー賞 第9回 2020年 [フォーインスクリーンプレイ事業部（発売）] 〈著者〉 浜・開架 【375.893/E37/9】

〈図書館の動き〉

- ・令和元年度第4回附属図書館委員会（メール審議）
＜令和2年3月5日（木）～3月13日（金）＞
 - 審議事項
 1. 令和元年度第3回議事要旨について
 2. 令和2年度事業計画について
 - 報告事項
 1. 令和元年度事業報告について
 2. 令和元年度図書館利用セミナー等の年間実施報告について
 3. 令和元年度附属図書館ギャラリー活動について
- ・令和2年度第1回附属図書館委員会（メール審議）
＜令和2年4月16日（木）～4月21日（火）＞
 - 審議事項
 1. 令和元年度第4回議事要旨について
 2. 附属図書館関連委員会委員等の選出について
 - 報告事項
 1. 第三期中期目標期間における附属図書館の年度計画について
 2. 令和2年度事業計画について
 3. 学術リポジトリの登録状況について
 4. 新型コロナウイルス感染症に関する対応について
 5. 図書館通信、教員利用マニュアルの発行について
- ・令和2年度第2回附属図書館委員会（メール審議）
＜令和2年7月8日（水）～7月14日（火）＞
 - 審議事項
 1. 令和2年度第1回議事要旨について
 2. 令和元年度附属図書館経費決算について
 3. 令和2年度附属図書館経費予算について
 4. 令和2年度学生用図書購入費の配分について
 5. 図書の不用決定について
 - 報告事項
 1. 附属図書館利用状況について
 2. 学外から利用できる電子情報について
 3. その他 研究室貸出図書点検の今年度の実施見送りについて / 図書館利用セミナーの在宅授業対応について / 電子掲示板の更改について
- ・令和2年度第3回附属図書館委員会（メール審議）
＜令和2年12月3日（木）～12月8日（火）＞
 - 審議事項
 1. 令和2年度第2回議事要旨について
 2. 令和3年度附属図書館の開館日程について
 3. 図書の不用決定について
 - 報告事項
 1. 学生用図書費に拠る令和3年度のデータベース購入について
 2. 令和2年度図書館利用セミナーの実施について
 3. 学生用雑誌の見直しについて

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第173号（令和3年3月31日発行）
発行所 静岡大学附属図書館 URL <https://www.lib.shizuoka.ac.jp/>
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
Tel.054-238-4473 Fax.054-238-5408

